

視 点

山口県の東の玄関口から

和木町長 坂本 啓三



和木町は山口県の東端に位置し、広島県と小瀬川を挟んで隣接しています。町域は岩国市と接し、北は広島県大竹市、東は瀬戸内海に面しています。行政区域面積は10.58km²で、そのうち約50%が山林であり、平地のほとんどは宅地化され、農耕地はわずかとなっています。沿岸には、三井化学株式会社岩国大竹工場やENEOS株式会社麻里布製油所が立地しており、日本で最初の石油化学コンビナートが誕生した町でもあります。

さて、自治体運営をめぐるのは、物価上昇や人材不足への対応、制度改定への追随、デジタル化を前提とした行政運営など、日本全国どこの自治体も以前よりも「やらなければならないこと」が大きく増えている状況にあり、それぞれの自治体が住民の皆さまのために、知恵をしぼって特色ある政策を進めていることと思います。

そのような中、和木町を「明るく元気に、笑顔あふれる町」にし、そして町民の皆さまに「和木町に住んで良かった」と思ってもらえる魅力的なまちをつくるため、これからの本町の10年を見据えた新たなまちづくりの指針となる「和木町第6次総合計画」を令和8年3月に策定しました。

計画の4つの重点施策のうちの一つに「少子化対策及び移住・定住対策の推進」があります。本町の子育て支援を語る上で欠かせないのが、

全国に先駆けて取り組んできた給食の無償提供です。本町では、将来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、学校給食制度の開始以来、無償提供を継続してまいりました。この手厚い支援は、子育て世帯の経済的負担を軽減し、本町が誇る「子育てしやすい町」としての大きな柱の一つとなっております。

本町が長年築き上げてきた子育て支援の象徴でもあるこの制度を、次世代へと引き継ぎ、移住・定住の促進を継続させるため、このたび、私の公約である学校給食センターの建替え事業に本年度から本格的に着手することにいたしました。令和12年度2学期の供用開始を見据え、本事業を単なる施設の更新に留めず、子どもたちへの未来投資と位置づけ、安心して子どもを産み育て、長く住み続けていただける魅力あるまちづくりを推進してまいります。

「町民の暮らしの中にこそ、まちづくりのヒントがあり、町民の声を聞くことがよりよい行政運営につながる」と私は常日頃から考えております。町民の皆さまの声に耳を傾け、信頼される行政を目指し、和木町をより元気に、希望あふれる町に変えてまいります。そして山口県の東の玄関口である和木町から、県全体を盛り上げてまいりたいと思います。



和木町ホームページ